

日本共産党杉並区議会議員

週刊

こんにちは 山田耕平 です

2018.11.8 No.315

このニュースへのご感想
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺2-2-11

TEL 090-9973-0941

ホームページ

http://yamadakohei.jp

区議会第三回定例会閉会 決算認定に反対① 豊かな財政力は区民福祉の向上に!

9月10日から開かれていた杉並区議会第三回定例会は10月16日に閉会しました。



決算特別委員会で質疑

本議会では、2017年度（H29年度）決算の審議が行なわれ、各会派から当該年度の決算認定に対する賛否が示されました。

豊かな財政力の一方 過度の貯め込みは深刻

当該年度決算認定に対して、党区議団は区政運営上の重大な問題があるとし、決算認定に反対。区民の願いに沿う区政運営に転換するよう求めました。主な反対理由は①～⑤の通りです。

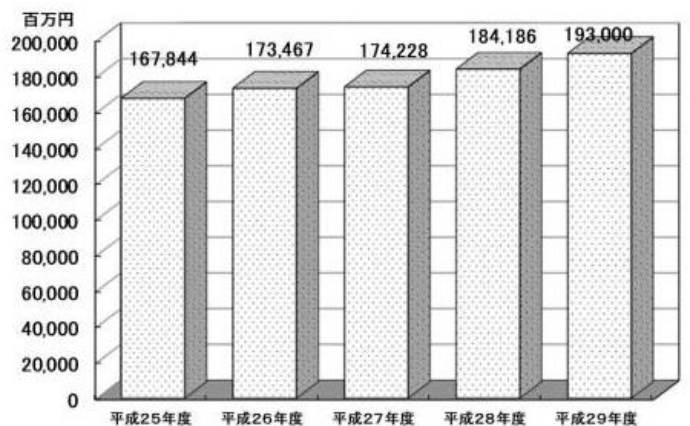
① 当該年度決算の問題点として、毎年度の税収が増加しているながら（※資料1）、豊かな財政力に応じた自治体の責務が果たされていないことが挙げられます。

② 基金残高が総額で523億円（内、何にでも使える財政調整基金は366億円※資料2、裏面資料3）にのぼり、豊かな財政力がありながら、国民健康保険料や区立施設使用料を引き上げ、区民負担を押し付けていること。

③ 一般会計全体の不用額（予算額の内、当年度に使わなかった額）は60億円。執行率は96.7%だが、低所得者施策や高齢福祉分野、障害福祉分野で執行率が7割にも満たない事業が多数に上っており（※裏面資料4）、行政の本来の役割を發揮していないこと。

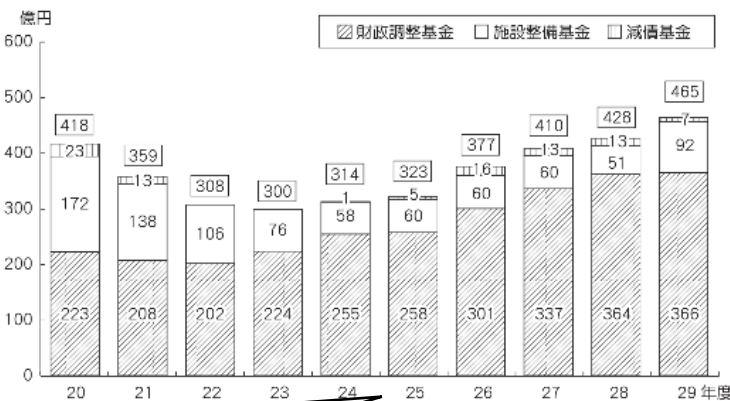
資料1

一般会計予算（補正後の最終予算額）の推移



杉並区「財政のあらまし—平成29年度下半期の財政状況—」より。
杉並区の人口は増加を続け、毎年度の税収も増加し続けている。将来人口推計では今後も人口増加を続ける見込みとなっている。

資料2 基金残高の推移



全ての基金残高の推移（毎年度の貯め込み）

- ◆ H25年度：371億円
- ◆ H26年度：425億円（前年比+54億円）
- ◆ H27年度：468億円（前年比+43億円）
- ◆ H28年度：486億円（前年比+18億円）
- ◆ H29年度：523億円（前年比+37億円）

区民の願いに沿う区政運営に転換を

区立施設の統廃合を強行 自治基本条例に反する

当該年度は、区民の財産でもある区立施設が次々と統廃合されました。

③ 区民の声を無視して、あんさんぶる荻窪・荻窪北児童館の廃止や高円寺地域の小中一貫校建設を強行したこと。

④ 住民参画の保障を謳った自治基本条例に反する区政運営を進めたこと。

区長の区政私物化が深刻化…区長擁護の姿勢は問題

党区議団の告発により、区長の区政私物化の実態が明らかとなりました。区民が納めた税金を一円たりとも無駄にしない姿勢が必要です。

⑤ 区長が公用車を使用し、他区の都議候補の選挙決起大会への出席や深夜に及ぶ使用を繰り返していたことや、区長・副区長の利害関係者とのゴルフコンペなど、区政私物化が深刻化していること。これらの不公正な実態に対し、杉並区が法令等に基づく厳正な判断ではなく、区長をひたすら擁護する姿勢を取り続けたこと。

こうした理由から、一般会計ならびに各特別会計の決算認定に反対しました。

負担軽減、区民施策に全力を

その上で、国民健康保険料については一般会計からの繰入を増額し保険料負担を軽減すること、施設使用料は他区で実施している5割減額等を導入し、使用料を引き下げるよう求めました。

低所得者・高齢者・障害者分野の各施策の執行率の低さの原因を調査分析し、真に区民が利用できる施策に拡充を図るべきと指摘しました。

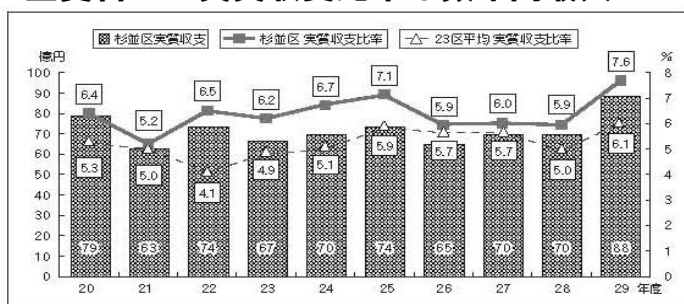
就学援助の拡充や小中学校トイレの洋式化、体育館へのエアコン設置の促進、児童館全館廃止方針の撤回等を求めました。

党区議団は、引き続き、区民福祉の向上に向け全力を尽くします。

■資料4 執行率の低い施策

施策名	執行率
高齢者保健施策の推進	62.2%
介護保険事業者支援	48.4%
高齢者いつときお助けサービス	70.0%
高齢者配食サービス	60.4%
高齢者住宅改修費助成	68.9%
高齢者24時間安心ヘルプ	59.5%
高齢者緊急安全システム	77.7%
介護保険住宅改修理由書作成に対する助成	23.9%
介護サービス利用低所得者の負担軽減	59.0%
障害者の就労支援事業	62.7%
障害者福祉事業者支援・指導	20.0%
障害者の権利擁護の推進	29.0%
障害者相談支援	56.7%

■資料3 実質収支比率は数年間最大に



実質収支比率とは？

自治体の財政規模に対する収支の割合。収支が黒字ならば正の数、赤字ならば負の数

従来から「3～5%が望ましい」とされており、杉並区・区政経営報告書にも明記している。

一方、過度の黒字がある場合、必要な行政サービスが実施されていないことを示している。

実質収支比率が5%を超えるような状況は、剰余金(使い残りの金)が多額に発生しており、年度の途中でこうした実態を把握していれば補正予算を編成し、その財源を有効に活用する必要がある。当該年度、杉並区は7.6%もの数値となり、多くの剰余金が発生した。

育メン日誌

すぎなみフェスタに参加

家族で杉並フェスタに参加しました。お目当ては知り合い(中学の先輩)のバレエ公演の見学と巨大段ボール迷路です。バレエには娘がハマリ、帰宅後も踊り続けています。

段ボール迷路は圧巻!おやじの会などでも挑戦してみたいです。

